国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2025

11月中旬～12月中旬

季節のおすすめ散策コース♪（ゆっくり歩いて1時間）
おてがるコース♪（ゆっくり歩いて30分）

イロハモミジ(ムクロジ科)
秋の紅葉の象徴的な植物。本種から多くの園芸品種が作られ、流通しています。

リンドウ(リンドウ科)
根は生薬として利用されてきましたが、胆汁のようにものすごく苦いことから「竜の胆汁」で「竜胆(りんどう)」という名前になったそうです。

アキグミ(実)(グミ科)
秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。

干し柿と茅葺き屋根(白拍子の家)

小野新池(カモなどの水鳥)

コバノガマズミ(実)(ガマズミ科)
春に小さな白い花が咲きます。よく似たミヤマガマズミよりも葉っぱが細く、さわるとふわふわした手触りです。

ススキ(イネ科)
秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。

ムラサキシキブ(実)(シソ科)
紫色の果実が特徴的な木。低地～山地の林縁部などに生えます。

ヤブコウジ(実)(サクラソウ科)
別名「十両」。「千両」や「万両」と並んで、縁起物としてお正月飾りによく使われます。

カマツカ(実)(バラ科)
カマの柄にできるほど材が強いことからこの名がついたそう。別名ウシコロシとも。

オギ(イネ科)
ススキととてもよく似ていますが、穂の色がススキよりも白く、一本ずつがまばらに生える所が見分けるポイントです。

いきもの

オオムラサキ(タテハチョウ科)
冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。

ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)
成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下の落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起は3対です。

ジョウビタキ(ヒタキ科)
橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。平地や低山の明るい林で暮らす、もっとも身近な冬鳥の一種。

ノスリ(タカ科)
小型のタカの仲間で、秋から冬にかけての渡りの時期によく姿を見かけます。

ルリビタキ(ヒタキ科)
青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。